

大山隠岐国立公園

本州西部の山陰地方に位置する大山隠岐国立公園は、海から山までの変化に富んだ多様な景観を見られ、美しい自然と豊かな文化と神秘性に恵まれた、多様性のある場所です。この国立公園は、西日本の3県（鳥取、島根、岡山）にまたがる4地域から構成されています。4地域とは大山・蒜山エリア、隠岐諸島エリア、島根半島エリア、三瓶山エリアを言います。

大山隠岐国立公園に見られる地質遺産は、日本列島の起源に関する貴重な情報を提供しています。およそ2600万年前に日本列島はユーラシア大陸から分離し、日本海が形成されました。その後の火山噴火と溶岩流、隆起と沈降、海面上昇、浸食と堆積によって、急な山々、広い沖積平野、海岸線、そして断崖、海の洞窟と深い入り江を特徴とする沖合の島々の風景が生まれました。公園の大部分の植生は、自然林と草原に属しており、この地域には多様な木々、高山の野の花があります。日本に存在するあらゆる種類の海草が見られる珍しい地域のひとつです。この地域は多種多様な昆虫、魚、鳥の生息地として最適です。この国立公園およびその周辺地域は世界最大級の両生類であるオオサンショウウオの生息地で、1メートル半までの長さに達し、そして世界で最も大きい両生類です。

大山隠岐国立公園エリアは、日本最古の書物である8世紀に書かれた『古事記』と『日本書紀』において、日本の神話の出雲の物語全体で登場します。また、733年に作られた『出雲国風土記』には、有名な『国引き神話』などの、地元の物語が多く保存されています。この『出雲国風土記』には、8世紀前半の政治や文化、人々の精神生活が記録されています。

少なくとも7世紀から8世紀にかけて、大山隠岐国立公園の山々は、アニミズムや神道、そして仏教の戒律の要素を組み合わせた、独特の日本の精神的伝統である修験道を育んできました。修験者たちは山の中で長い期間を過ごし、断食や祈り、様々な事柄に耐え抜くことで、霊的な力を高めました。山の巡礼に出かける習慣は、後に一般の人々にも広まりました。今日、登山者たちは、公園内の歴史的な小道を歩いて、修験者たちと同じ聖地を訪れることができます。また、何世紀にも渡って山の神聖な地位が生態系を保護し、公園の森林や海岸線の多くを手付かずの状態に保ちました。

大山隠岐国立公園への訪問者は、幅広い目的地とアクティビティを選ぶことができます。公園の東部には、大山や船上山、三徳山がそびえています。中でも大山は、1729メートルでこの地域で最も高い山です。これらの山々のハイキングコースは、ブナの原生林や小さな神社や寺を囲む古来の神聖な木々の間を通っています。登山者は、自然保護と修復プロジェクトに参加することができます。冬の時期は、山は雪に覆われ、スキーやスノーシューに最適です。山岳地は、ダイナミックな火山の景色と豊かな生物多様性、そして日本の神話や歴史、さらには伝統ある精神を深く掘り下げる固有の機会を兼ね備えています。

公園の西側には出雲大社があります。ここには山陰地方を治めたとされる神道の神である大国主命が祀られています。近くには砂浜があり、毎年1回秋の時期になると、日本の神々がこの地に集まってきます。この時期の訪問者は、これらの神々が出雲に滞在する月の間に開催される多くの儀式を見ることができます。出雲大社への訪問は、良縁を求める日本人に人気があります。美しい海岸沿いには日御碕神社と美保神社があります。

島根半島や隠岐の島々では、赤壁や加賀の潜戸、摩天崖など、壮大な沿岸の景色を楽しむことができます。観光客は遊覧船で海岸に沿って大きな海の洞窟に行くことができるだけでなく、シーカヤックやシュノーケリングも夏の人気アクティビティです。隠岐諸島の壮観な沿岸の岩層と多様な地層は、ユネスコ世界ジオパークとして指定されています。これらの島々には、ここでしか見られない固有種であるオキサシヨウウオが生息しています。沿岸水域は魚釣りでも有名で、島根半島の西端に位置する経島は、ウミネコの繁殖地となっています。

公園の西端に位置する三瓶山は広い草原に覆われた休眠火山です。この地域には数多くの温泉地があります。この山は島根半島がどのようにして形成されたかについて物語る『国引き神話』と密接に関係しています。またこの地域の地下には、約4000年前の山の最後の噴火の間に埋められた古代の森林が保存されています。

この公園に隣接する、大きく浅い汽水湖である中海と宍道湖は、しじみと水鳥で有名です。どちらも国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されています。歴史ある城下町である松江は、日本の茶道文化の中心地として有名です。国宝にも指定されている松江城は、全国で現存する12天守のうちのひとつです。